

病・日本紅斑熱) 小児科診療 小児の治療指針 2010 増刊号.73:141-142, 2010.

22) 竹之下秀雄, 成田雅, 山本正悟, 安藤秀二, 藤田博己. 福島県におけるタテツツガムシによるつつが虫病. 病原微生物検出情報 31 : 125-126, 2010.

23) 松本一俊, 八尋俊輔, 松尾繁, 原田誠也, 山本正悟, 本田俊郎, 安藤秀二. 熊本県における日本紅斑熱患者の急増. 病原微生物検出情報 31 : 134-135, 2010.

24) 安藤秀二, 坂田明子, 花岡希, 川端寛樹, 藤田博己, 黒澤昌啓, 齊藤若奈, 矢野泰弘, 高田伸弘, 酒井克朗, 勝見正道, 関根雅夫, 小黒美舎子, 熊谷正憲, 岸本寿男. *Rickettsia heilongjiangensis* 国内感染の第一症例の確認経過と感染源調査. 病原微生物検出情報 31 : 136-137, 2010.

25) 中野敏明, 衛藤光, 横田恭子, 古川恵一, 安藤秀二, 坂田明子. モザンビーク共和国で感染した *Rickettsia africae* によるマダニ刺症の 2 例. 病原微生物検出情報 31 : 137-138, 2010.

26) 安藤秀二, 坂田明子. 日本国内のリケッチア症実験室診断に関する状況と課題. 病原微生物検出情報 31 : 139-140, 2010.

27) 藤田博己, 藤田信子, 馬原文彦: 紅斑熱群と発疹熱リケッチアから簡易抽出したアルカリ多糖体感作赤血球凝集反応によるリケッチア症の迅速抗体検出法の検討 (予報). 大原年報, 50: 37-40, 2010.

28) 松井珠乃, 藤本嗣人, 佐藤 弘, 安井良則, 岡部信彦: つつが虫病および日本紅斑熱について発生頻度が異なる地域での市民医学講座参加者における認知度比較, 感染症学雑誌. 84(1):48-51,2010.

29) 佐藤寛子, 國生泰範, 柴田ちひろ, 斎藤博之, 齊藤志保子, 藤田博己, 須藤恒久: 秋田県において 15 年ぶりに確認された古典型つつが虫の 1 例. 感染症誌, 84: 454-456, 2010.

30) 山内健生, 高野 愛, 坂田明子, 馬場俊一, 奥島雄一, 川端寛樹, 安藤秀二. タカサゴキアラマダニによる人体刺症の 5 例. 日本ダニ学会誌. 19(1), 15-21, 2010.

31) 安藤秀二, 坂田明子, 花岡希, 川端寛樹, 藤田博己, 黒澤昌啓, 齊藤若奈, 矢野泰弘, 高田伸弘, 酒井克朗, 勝見正道, 関根雅夫, 小黒美舎子, 熊谷正憲, 岸本寿男. *Rickettsia heilongjiangensis* 国内感染の第一症例の確認経過と感染源調査. 病原微生物検出情報.31 : 136-137,2010.

32) 森志朋, 櫻井英一, 赤坂俊英, 坂田明子, 安藤秀二, 岸本寿男. Pre-DIC を併発し polymerasa chain reaction (PCR)法で診断したツツガムシ病の 1 例. 臨床皮膚科, 64 : 512-516,2010.

33) 森志朋, 櫻井英一, 赤坂俊英, 坂田明子, 安藤秀二, 岸本寿男. Pre-DIC を併発し polymerasa chain reaction (PCR)法で診断したツツガムシ病の 1 例. 臨床皮膚科.64 : 512-516,2010.

34) 佐藤寛子, 柴田ちひろ, 佐藤了悦, 斎藤博之, 安部真理子, 齊藤志保子, 國生泰範, 高橋 守, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 川端寛樹, 高野 愛, 須藤恒久: 夏季の古典型つつが虫病事例と感染推定地周辺におけるツツガムシの生息状況調査—秋田県. 病原微生物検出情報, 31: 123-124, 2010.

35) 竹之下秀雄, 成田 雅, 山本正悟, 安藤秀二, 藤田博己: 福島県におけるタテツツガムシによるつつが虫病. 病原微生物検出情報, 31: 125-126, 2010.

36) 安藤秀二, 坂田明子, 花岡 希, 川端寛樹, 藤田博己, 黒澤昌啓, 斎藤若菜, 矢野泰弘, 高田伸弘, 酒井克朗, 勝見正道, 関根雅夫, 小黒美舎子, 熊谷正憲, 岸本壽男: *Rickettsia heilongjiangensis* 国内感染の第1症例の確認経過と感染源調査. 病原微生物検出情報, 31: 136-137, 2010.

37) 岩崎博道, 安藤秀二, 高田伸弘 肝リケツチア症, 日本臨床 肝・胆道系症候群 I (第2版)、日本臨床社、別冊: 140-144, 2010.

平成 23 (2011) 年度

1) Inoue, K., Kabeya, H., Fujita, H., Maki-no, T., Asano, M., Inoue, S., Inokuma, H., Nogami, S., Maruyama, S. Serological survey of five zoonoses, scrub typhus, Japanese spotted fever, tularemia, Lyme disease, and Q fever in feral raccoons (*Procyon lotor*) in Japan. *Vector Born. Dis.* 11 (1): 15-19, 2011.

2) Matsumoto, K., Takeuchi, T., Yokoyama, N., Katagiri, Y., Ooshiro, M., Zakimi, S.,

Gaowa, Kawamori, F., Ohashi, N., Inokuma, H. Detection of the new *Ehrlichia* species closely related to *Ehrlichia ewingii* from *Haemaphysalis longicornis* in Yonaguni Island, Okinawa, Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 73, 1485-1488, 2011.

3) Tabara, K., Kawabata, H., Arai, S., Itagaki, A., Yamauchi, T., Katayama, T., Fujita, H. and Takada, N.: High incidence of rickettsiosis correlated to prevalence of *Rickettsia japonica* among *Haemaphysalis longicornis* tick. *J. Vet. Med. Sci.*, 73: 507-510, 2011.

4) Tamakuma K, Mizutani Y, Ito M, Shiogama K, Inada K, Miyamoto K, Utsunomiya H, Mahara F, Tsutsumi Y. Histopathological diagnosis of Japanese spotted fever using formalin-fixed, paraffin-embedded skin biopsy specimens. Usefulness of immunohistochemistry and real-time PCR analysis. *Clin Microbiol Infect.* Available on line, 2011. (<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1469-0691.2011.03569.x/abstract>)

5) Takano A, Nakao M, Masuzaka T, Takada N., Yano Y, Ishiguro F, Fujita H., Ito T, Ma X, Oikawa Y, Kawamori F, Kumagai K, Mikami T, Hanaoka N, Ando S. Honda N, Tayler K, Tsubota T, Konnai S, Watanabe M, Ohnishi M, and Kawabata H. Multilocus sequence typing Implicates rodents as the main reservoir host of Human-pathogenic *Borrelia garinii* in Japan. *Journal of Clinical Microbiology*, 49: 2035-2039, 2011.

- 6) Inokuma, H., Matsuda, H., Sakamoto, L., Tagawa, M., Matsumoto, K. Evaluation of *Rickettsia japonica* pathogenesis and reservoir potential in dogs by experimental inoculation and epidemiologic survey. *Clin. Vacc. Immunol.* 18 (1): 161-166,2011.
- 7) Murase Y, Konnai S, Hidano A, Githaka NW, Ito T, Takano A, Kawabata H., Ato M., Tajima T, Tajima M, Onuma M, Murata S, Ohashi K. Molecular detection of *Anaplasma phagocytophilum* in cattle and *Ixodes persulcatus* ticks. *Vet Microbiol.* 2011 May 5;149(3-4):504-7.
- 8) Gaowa, Wurutu, Wu, D., Yoshikawa, Y., Ohashi, N., Kawamori, F., Sugiyama, K., Ohtake, M., Ohashi, M., Yamamoto, S., Kitano, T., Takada, N., and Kawabata, H. Detection and characterization of *p44/msp2* transcript variants of *Anaplasma phagocytophilum* from naturally infected ticks and wild deer in Japan, *Jpn. J. Infect. Dis.* (in press.)
- 9) Sasaki, H., Ichikawa, Y., Sakata, Y., Endo, Y., Nishigaki, K., Matsumoto, K., Inokuma, H. Molecular survey of *Rickettsia*, *Ehrlichia* and *Anaplasma* infection of domestic cats in Japan. *Ticks and Tick-Borne Diseases* (in press)
- 10) Sashika, M., Abe, G., Matsumoto, K., Inokuma, H. Molecular survey of *Anaplasma* and *Ehrlichia* infection of feral Raccoons (*Procyon lotor*) in Hokkaido, Japan. *Vector Borne Dis.* (in press)
- 11) Uchiyama, T., Kishi, M., and Ogawa, M. Restriction of the growth of a nonpathogenic spotted fever group rickettsia. *FEMS Immunology and Medical Microbiology*, in press.
- 12) 高田伸弘：病気のはなしー最近のリケッチア症。検査と技術, 39(4)：262-268. 医学書院 2011.
- 13) 高田伸弘：医ダニ類の形態と病害。モダンメディア, 57(6)：185-188, 栄研化学 2011.
- 14) 馬原文彦, 藤田博己：つつが虫病と日本紅斑熱（特集 ヒトと家畜・ペット・野生動物の感染症ー口蹄疫から学ぶ）ー（野生動物と動物由来感染症）。公衆衛生, 75, 31-35, 2011.
- 15) 安藤秀二, 最近の輸入発疹熱事例について。人と動物の共通感染症研究会のニューズレター, 10: 4-6, 2011年10月
- 16) 阿戸 学:分担執筆【リケッチア】免疫の事典 桂 義元 河本 宏 小安重夫 山本一彦 編集 朝倉書店 2011
- 17) 富岡鉄平, 島田智恵, 藤本嗣人, 松井珠乃, 佐藤弘, 八幡祐一郎, 橘とも子, 岡部信彦：日本紅斑熱発生地域および近隣の発生が少ない地域における知識および受診行動。感染症学雑誌. 85(2);180-183, 2011.
- 18) 安藤秀二, リケッチア, 平松啓一監修, 中込治, 神谷茂編集, 標準微生物学, 第11版, in press

19) 内山恒夫. リケッチア -紅斑熱群-, 新居士郎・倉田 毅・林 英生・本田武司・小田 紘・松本 明 編, 病原細菌・ウイルス図鑑, 北海道大学出版会, 北海道, 印刷中.

2. 学会発表

平成 21 (2009) 年度

1) TAMAKUMA K, MIYAMOTO K, SHIOGAMA K, UTSUNOMIYA H, INADA K, FUJITA H, MAHARA F, TSUTSUMI Y. Detection of *Rickettsia japonica* & *Orientia tsutsugamushi* by in situ hybridization. 23rd Meeting of the American Society for Rickettsiology. Aug. 2009, South Carolina, USA

2) 安藤秀二, 黒澤昌啓, 坂田明子, 藤田博己, 矢野泰弘, 高野 愛, 川端寛樹, 花岡 希, 斉藤若奈, 岸本壽男: 仙台市で確認された新しい紅斑熱リケッチア症. 第 83 回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京

3) 安藤秀二, 藤田博己, 坂田明子, 矢野泰弘, 大竹秀男, 及川陽三郎, 角坂照貴, 黒澤昌啓, 川端寛樹, 高田伸弘. 仙台市での *Rickettsia heilongjiangensis* 感染症例の発見と保有マダニ調査. 第 55 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2009 年 10 月, 帯広

4) 安藤秀二, 藤田博己. 北日本にみる新型都市型紅斑熱のベクター. 第 17 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2009 年 6 月, 福井

5) 安藤秀二. マダニ媒介感染症の野外調査

について. 衛生微生物技術協議会第 30 回研究会. 2009 年 7 月, 大阪

6) 安藤秀二. 衛生行政における感染研の役割—ウイルス第一部第五室の事例より—. 人獣共通感染症とダニ関連感染症 in 奄美 2009 セミナー, 2009 年 12 月, 鹿児島

7) 伊東拓也, 高田伸弘, 及川陽三郎, 藤田博己, 坂田明子, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野愛. 日本北端地域におけるマダニ媒介性病原体の調査. 第 55 回日本寄生虫学会・衛生動物学会北日本支部合同大会. 2009 年 10 月, 帯広

8) 伊東拓也, 高田伸弘, 藤田博己, 坂田明子, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野 愛. 日本北端地域におけるマダニ媒介性病原体の調査. 第 55 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2009 年 10 月, 帯広

9) 井本一也, 大路剛, 山本舜悟, 細川直登, 岸本寿男, 安藤秀二, 坂田明子. 当院で経験した発疹熱 (Murine Typhus) の症例. 第 83 回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京

10) 稲井邦博, 岩崎博道, 法木左近. PET による病原微生物検出法の開発 -第 2 報-. 第 9 回敗血症研究会. 2010 年 3 月, 福井

11) 稲井邦博, 岩崎博道, 法木左近. 細胞壁構成成分を分子標的とする病原体局在部位検出法の開発. 第 83 回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京

12) 花岡希, 松谷峰之介, 川端寛樹, 山本正悟, 藤田博己, 坂田明子, 東 慶直, 小川基彦,

岸本壽男, 白井睦訓, 倉根一郎, 安藤秀二.
病原性 *Rickettsia japonica* グループにおける
特異的 ORF の同定と検出系への応用. 第 27
回日本クラミジア研究会 第 16 回 リケッチ
ア研究会 合同研究発表会. 2009 年 11 月. 東
京

13) 花岡希, 松谷峰之介, 川端寛樹, 藤田博
己, 岸本壽男, 白井睦訓, 安藤秀二. リケッ
チア感染症に対する特異的診断系の開発. 第
82 回日本細菌学会総会. 2009 年 3 月, 名古
屋

14) 花岡希, 松谷峰之介, 川端寛樹, 山本正
悟, 藤田博己, 坂田明子, 東 慶直, 小川基彦,
岸本壽男, 白井睦訓, 倉根一郎, 安藤秀二.
病原性 *Rickettsia japonica* グループにおける
特異的 ORF の同定と検出系への応用. 第 27
回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチ
ア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東
京

15) 岩崎博道, 高田伸弘, 田原研司, 田居克
規, 池ヶ谷諭史, 稲井邦博, 上田孝典. 国内
発症ダニ媒介性リケッチア感染症における重
症度と血中サイトカイン濃度の関連. 第 83
回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京

16) 岩崎博道, 馬原文彦. リケッチア症診療
の場合. 第 17 回ダニと疾患のインターフェ
ースに関するセミナー SADI 越の国大会.
2009 年 6 月, 福井

17) 岩崎博道. 高齢化に伴う易感染症の総論.
第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関
するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6
月, 福井

18) 岩崎博道. 新興リケッチア症の重症化機
序解明と救命治療法. 第 17 回ダニと疾患の
インターフェースに関するセミナー SADI
越の国大会. 2009 年 6 月, 福井

19) 岩崎博道. 内科医としての病害動物との
かかわり. 第 27 回北陸病害動物研究会. 2009
年 6 月, 金沢

20) 吉本 薫, 松山雄喜, 松田浩典, 坂本礼
央, 太田奈保美, 水野大介, 秦 寛, 松本高太
郎, 横山直明, 猪熊 壽. 牛放牧地で採取した
オオトゲチマダニからの *Anaplasma pha-*
gocytophilum および *Anaplasma bovis* の検
出. 第 147 回日本獣医学会. 2009 年 4 月,
宇都宮

21) 及川陽三郎, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田
博己, 大橋典男, 川森文彦, 森田裕司, 玉置
幸子. 紀伊半島和歌山県におけるツツガムシ
病と紅斑熱の住み分け—特にベクターや環境
要因からの考察. 第 61 回日本衛生動物学会
大会. 2009 年 4 月. 高松

22) 及川陽三郎, 小島清登, 藤田博己, 望月
隆, 高田伸弘. タネガタマダニが保有するリ
ケッチア In56 タイプのヒトへの感染性につ
いて. 第 64 回日本衛生動物学会西日本支部
大会. 2009 年 10 月, 大津

23) 玉熊桂子, 伊藤舞, 稲田健一, 堤 寛,
宮本和昭, 宇都宮洋才, 秋本茂, 馬原文彦.
日本紅斑熱に病理診断. 10%ホルマリン固定
パラフィン包埋皮膚生検標本を利用した免疫
染色と REAL-TIME PCR 法の比較検討.
2009 年 10 月, 滋賀

- 24) 玉熊桂子, 稲田健一, 堤 寛, 宮本和昭, 宇都宮洋才, 秋本茂, 馬原文彦. 日本紅斑熱とツツガムシ病の *in situ hybridization* 法による鑑別. SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井
- 25) 玉熊桂子, 稲田健一, 堤 寛, 宮本和昭, 宇都宮洋才, 秋本茂, 馬原文彦. 日本紅斑熱とツツガムシ病の *in situ hybridization* 法による鑑別. 第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井
- 26) 玉熊桂子, 宮本和明, 藤田博己, 馬原文彦, 堤 寛. 日本紅斑熱とツツガムシ病の *in situ hybridization* 法による鑑別. 第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井
- 27) 高田伸弘, 岩崎博道, 藤田博己, 角坂照貴, 及川陽三郎, 田原研司, 山本正悟, 本田俊郎, 平良勝也, 岡野 祥, 安藤秀二, 川端寛樹, 岸本壽男. 環東シナ海の島嶼に分布するツツガムシ, 疫学的な連関は? . 第 61 回日本衛生動物学会. 2009 年 4 月, 高松
- 28) 高田伸弘, 玉置幸子, 田畑好基, 森田裕司. 紀伊半島でのリケッチア症多発の地理病理, 三重県志摩半島と和歌山県紀南地方の場合. 第 64 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2009 年 10 月, 大津
- 29) 高田伸弘, 高岡正敏, 田畑好基, 岸本壽男. リケッチア症多発地域におけるベクター防圧の試行, 三重県志摩半島での居住区に限定した方策 (予報). 第 64 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2009 年 10 月, 大津
- 30) 高田伸弘, 藤田博己, 安藤秀二, 川端寛樹, 矢野泰弘, 高野 愛, 岸本壽男. 仙台市内河川敷にみるネズミ分布相の特性—広東住血線虫や紅斑熱感染環との絡み—. 第 61 回日本衛生動物学会大会. 2009 年 4 月, 高松
- 31) 高田伸弘. 我国のリケッチア症多発の地理病理学的要因, 紀伊半島の例から. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都
- 32) 高田伸弘. 研修フォーラム (招待講演). 輸入人畜共通感染症—新たに追加された 4 類感染症—ダニ類介在性感染症の発生動態と今後の対応. 第 68 回日本公衆衛生学会総会. 2009 年 10 月, 奈良
- 33) 高田伸弘, 藤田博己, 安藤秀二, 川端寛樹, 矢野泰弘, 高野 愛, 岸本壽男. 仙台市内河川敷にみるネズミ分布相の特性—広東住血線虫や紅斑熱感染環との絡み—. 第 61 回日本衛生動物学会大会. 2009 年 4 月, 高松
- 34) 高野 愛, 川端寛樹, 武藤麻紀, 小笠原由美子, 藤田博己, 鶴見みや古, 渡邊治雄. 国内で初めて見いだされた回帰熱ボレリアの感染性に関する研究. 第 55 回日本衛生動物学会北日本支部大会. 2009 年 10 月, 帯広
- 35) 高野 愛, 川端寛樹, 武藤麻紀, 藤田博己, 渡邊治雄. 国内産爬虫類寄生性マダニから見いだされたボレリアとそのマダニ体内での動態. 第 83 回日本細菌学会総会. 2010 年 3 月, 横浜
- 36) 高野 愛, 藤田博己, 安藤秀二, 川端寛樹, 渡邊治雄. 野生鳥類を主とした国内生態系におけるボレリアの存在様式と病原体拡散

に関するリスクの検討. 第 82 回日本細菌学会総会. 2009 年 3 月, 名古屋

37) 高野 愛, 藤田博己, 角坂照貴, 今内覚, 田島朋子, 五箇公一, 宇根有美, 川端寛樹, 渡邊治雄. 爬虫類および爬虫類寄生マダニより発見された新群のボレリアとその性状解析. 第 149 回日本獣医学会学術集会. 2010 年 3 月, 東京

38) 高野 愛, 藤田博己, 角坂照貴, 今内覚, 田島朋子, 武藤麻紀, 小笠原由美子, 川端寛樹, 渡邊治雄. 国内産爬虫類寄生性マダニから見いだされたボレリアとそのマダニ体内での動態. 第 148 回日本獣医学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取

39) 今内覚, 村瀬優介, 山田慎二, 肥田野新, 伊東拓也, 川端寛樹, 小沼操, 大橋和彦. シュルツェマダニにおけるライム病ボレリア伝播関連遺伝子の同定. 第 148 回日本獣医学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取

40) 佐鹿万里子, 阿部 豪, 松本高太郎, 猪熊 壽. 北海道のアライグマ末梢血からの紅斑熱群リケッチア DNA の検出. 第 148 回日本獣医学会. 2009 年 9 月, 鳥取

41) 佐藤寛子, 柴田ちひろ, 佐藤了悦, 斎藤博之, 安部真理子, 齊藤志保子, 高橋 守, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 川端寛樹, 高野 愛. 秋田県における古典的つつが虫病患者の症例とツツガムシの生息状況調査の経過報告. 第 55 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2009 年 10 月, 帯広

42) 佐藤寛子, 柴田ちひろ, 佐藤了悦, 斎藤博之, 安部真理子, 齊藤志保子, 高橋 守, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 川端寛樹, 高野 愛. 秋田県において 15 年ぶりに確認されたアカツツガムシ媒介性つつが虫病と感染推定地におけるツツガムシの生息状況調査. 第 27 回日本クラミジア研究会 第 16 回 リケッチア研究会 合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京

43) 佐藤寛子, 柴田ちひろ, 佐藤了悦, 斎藤博之, 安部真理子, 齊藤志保子, 高橋守, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 川端寛樹, 高野 愛. 秋田県における古典的つつが虫病患者の症例とツツガムシの生息状況調査の経過報告. 第 55 回日本衛生動物学会北日本支部大会. 2009 年 10 月, 帯広

44) 坂本礼央, 坂田義美, 市川康明, 松本高太郎, 猪熊 壽. 犬のアナプラズマ科病原体感染に関する全国的分子疫学的調査. 第 148 回日本獣医学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取

45) 山内健生, 田原研司, 金森弘樹, 川端寛樹, 新井 智, 片山 丘, 藤田博己, 矢野泰弘, 高田伸弘, 板垣朝夫. 島根県の日本紅斑熱汚染地域におけるマダニ相. 日本昆虫学会第 69 回大会. 2009 年 10 月, 三重

46) 山内健生, 小原真弓, 渡辺護, 安藤秀二, 品川保弘, 長谷川澄代, 中村一哉, 滝澤剛則. 富山県産哺乳類に寄生していたマダニ類. 第 61 回日本衛生動物学会大会. 2009 年 4 月. 高松

47) 山本正悟, 安藤秀二, 岸本壽男. つつが虫病および日本紅斑熱の早期診断における刺

口（痂皮）の有用性. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京

48) 山本正悟, 安藤秀二, 岸本壽男. つつが虫病および日本紅斑熱の早期診断における刺口（痂皮）の有用性. 第 79 回日本感染症学会西日本地方会学術集会. 2009 年 11 月, 福岡

49) 山本徳栄, 近真理奈, 山口正則, 大山龍也, 藤田博己, 安藤秀二, 小川基彦, 岸本寿男. 埼玉県の野生アライグマにおけるリケッチア類の保有状況調査・第一報. 第 83 日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京

50) 小原真弓, 山内健生, 渡辺護, 安藤秀二, 石倉康宏, 品川保弘, 長谷川澄代, 中村一哉, 堀元栄詞, 岩井雅恵, 倉田毅, 滝澤剛則. 富山県におけるマダニ類と保有リケッチア. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京

51) 小川基彦, 大内史子, 萩原健一, 松谷峰之介, 内山恒夫. 病原性の異なる *Orientia tsutsugamushi* の発現タンパク質の 2 次元電気泳動による比較・解析. 第 83 回日本細菌学会総会. 2010 年 3 月, 横浜

52) 小川基彦, 大内史子, 萩原健一, 松谷峰之介, 内山恒夫. 病原性の異なる *Orientia tsutsugamushi* の発現タンパク質の 2 次元電気泳動による比較・解析～第一報. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京

53) 小泉信夫, 谷川力, 林英治, 赤尾信明, 川端寛樹, 渡邊治雄. 東京都で発生したレプトスピラ症とドブネズミのレプトスピラ保有状況. 第 83 回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京

54) 松山雄喜, 早川大輔, 松本高太郎, 横山直明, 猪熊 壽. 放牧牛の *Anaplasma phagocytophilum* 感染におけるエゾシカとマダニの役割. 第 147 回日本獣医学会. 2009 年 4 月, 宇都宮

55) 松谷峰之介, 東慶直, 小川基彦, 花岡希, 川端寛樹, 倉根一郎, 安藤秀二, 岸本寿男, 白井睦訓. 日本紅斑熱の原因菌 *Rickettsia japonica* の全ゲノム配列解析. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会, 2009 年 11 月, 東京

56) 松田浩典, 坂本礼央, 吉本 薫, 竹内俊彦, 松山雄喜, 松本高太郎, 猪熊 壽. *Rickettsia japonica* の犬に対する病原性および日本紅斑熱感染症における犬の疫学的役割の検討. 第 148 回日本獣医学会. 2009 年 9 月, 鳥取

57) 松本一俊, 松尾繁, 八尋俊輔, 原田誠也, 山本正悟, 安藤秀二. 熊本県における日本紅斑熱の発生状況とベクター. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京

58) 森田裕司, 藤田博己. 和歌山県においてマダニ媒介が推定された野兎病の 1 例. 第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井

59) 森田裕司, 藤田博己. 和歌山県においてマダニ媒介が推定された野兎病の1例. 第83回日本感染症学会総会. 2009年4月, 東京

60) 青地美南, 高娃, 鳥日図, 川森文彦, 大橋典男. 紀伊半島のマダニから検出された紅斑熱群リケッチアDNAの解析. 第82回日本細菌学会総会. 2009年3月, 名古屋

61) 石畝 史, 田原研司, 藤田博己, 及川陽三郎, 高田伸弘. 中国中南部にあると言われるマダニ媒介感染症のユニークな感染環-裏付け調査の概況-. 第64回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2009年10月, 大津

62) 川上万里, 梅川康弘, 木田浩司, 石井 学, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本寿男, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田博己, 田原研司, 島津幸枝, 及川陽三郎. 岡山県で初めて確認された日本紅斑熱と疫学調査について. 第84回日本感染症学会総会. 2010年4月, 京都

63) 川森文彦, 青地美南, 高娃, 廣井みどり, 神田隆, 杉山寛治, 大橋典男. 静岡県東部で採取されたマダニにおける紅斑熱群リケッチア検出状況. 第82回日本細菌学会総会. 2009年3月, 名古屋

64) 川森文彦, 湊 千壽, 飯田奈都子, 山田俊博, 長岡宏美, 杉山寛治, 大橋典男. 静岡県のマダニから検出された紅斑熱群リケッチアDNAの解析. 第148回日本獣医学会学術集会. 2009年9月, 鳥取

65) 川端寛樹, 高野 愛, 藤田博己, 武藤麻紀, 渡邊治雄. MLST法による国内野生鳥類由来ボレリアと北海道患者由来ボレリアの遺

伝子型別解析. 第83回日本細菌学会総会. 2010年3月, 横浜

66) 川端寛樹, 武藤麻紀, 高野 愛, 小笠原由美子, 藤田博己, 鶴見みや古, 増沢俊幸, 宮本健司, 渡邊治雄. Multi-locus sequence typing法による国内野生鳥類由来ボレリアと北海道患者由来ボレリアの遺伝子型別解析. 第55回日本衛生動物学会北日本支部大会. 2009年10月. 帯広.

67) 大橋典男, 千屋誠造, 船戸豊彦, 塩尻正明, 高野愛, 川端寛樹, 安藤秀二, 岸本壽男. 国内初の新興感染症「ヒトアナプラズマ症」2症例について. 第83回日本感染症学会総会. 2009年4月, 東京

68) 大橋典男, 鳥日図, 高娃, 川森文彦, 高野愛, 川端寛樹, 安藤秀二, 岸本壽男. 国内初の新興感染症「アナプラズマ症」について. 第82回日本細菌学会総会. 2009年3月, 名古屋

69) 大橋典男. エーリキア症とアナプラズマ症. 第21回日本薬学会・微生物学シンポジウム(福山) 2009年9月3日-4日

70) 大竹秀男, 小林 萌, 藤田博己. 宮城県仙台市南部の公園・緑地環境におけるマダニ類の生息状況(予報). 第55回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2009年10月, 帯広

71) 池ヶ谷諭史, 岩崎博道, 田居克規, 上田孝典. Febrile neutropeniaにおける血液培養の再考. 第57回日本化学療法学会総会. 2009年6月, 東京

- 72) 池ヶ谷諭史, 田居克規, 岩崎博道, 上田孝典. CNS が起炎菌か contamination か識別に関する検討. 第 83 回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京
- 73) 竹下望, 柳沢邦雄, 加藤康幸, 金川修造, 坂田明子, 安藤秀二, 岸本寿男, 照屋勝治, 菊池嘉, 岡慎一, 工藤宏一郎. インドネシアからの輸入症例と考えられる急性腎不全を伴った発疹熱の一例. 第 83 回日本感染症学会総会. 2009 年 4 月, 東京
- 74) 竹内俊彦, 松本高太郎, 横山直明, 片桐慶人, 大城 守, 座喜味聡, 川森文彦, 大橋典男, 猪熊壽. 沖縄県与那国島における新規エーリキア属細菌の検出. 第 148 回日本獣医学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取
- 75) 中山恵介 (特別企画演者). ツツガムシ病病原体のゲノム. 第 21 回微生物シンポジウム. 2009 年 9 月, 福山
- 76) 中山恵介, 小椋義俊, 大岡唯佑, ASADULGHANI, 山崎和子, 村瀬一典, RAKIBUL, 林哲也. オリエンチア属細菌間における比較ゲノム解析. 日本分子生物学会第 9 回春季シンポジウム. 2009 年 5 月, 宮崎
- 77) 中山恵介, 小椋義俊, 大岡唯佑, 林哲也. *Orientia tsutsugamushi* に存在が予想されるペプチドグリカンの解析 ~Analysis of cell wall structure of *Orientia tsutsugamushi*~. 第 83 回日本細菌学会総会. 2010 年 3 月, 横浜
- 78) 中野敏明, 衛藤光, 横田恭子, 古川恵一, 安藤秀二, 坂田明子. *R.africae* によるマダニ刺症の 2 例. 日本皮膚科学会関東支部会. 2009 年 7 月, 東京
- 79) 猪熊 壽, 坂本礼央, 松本高太郎, 市川康明, 坂田義美. 犬のアナプラズマ科病原体感染に関する全国的調査. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京
- 80) 猪熊 壽, 松本高太郎, 坂田義美, 市川康明. 種特異的抗体検出キットを利用した犬の *Ehrlichia canis* および *Anaplasma phagocytophilum* 感染の全国的疫学調査. 第 148 回日本獣医学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取
- 81) 田居克規, 岩崎博道, 根来英樹, 高木和貴, 池ヶ谷諭史, 浦崎芳正, 上田孝典. DNA マイクロアレイ法による造血器疾患に合併する *Bacillus* 敗血症の早期診断. 第 57 回日本化学療法学会総会. 2009 年 6 月, 東京
- 82) 田居克規, 岩崎博道, 池ヶ谷諭史, 上田孝典. 抗菌薬によるサイトカイン産生修飾作用を介した生体防御に関する研究. 第 9 回敗血症研究会. 2010 年 3 月, 福井
- 83) 田居克規, 池ヶ谷諭史, 岩崎博道, 高木和貴, 浦崎芳正, 上田孝典. 新規キノロン系抗菌薬(Garenoxacin)による TNF- α , IL-6 産生修飾作用. 第 52 回日本感染症学会中日本地方会学術集会. 第 57 回日本化学療法学会総会. 2009 年 6 月, 東京
- 84) 田原研司, 山本正悟. リケッチア症例にみる高齢化—島根県・宮崎県の場合—. 第 64 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2009 年 10 月, 大津

85) 田原研司, 板垣朝夫, 金森弘樹, 山内健生. 島根半島で多発する日本紅斑熱の媒介マダニ類の推定—*Rickettsia japonica* の浸淫状況とニホンジカの関連—. 第 148 回日本獣医学会学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取

86) 田原研司, 板垣朝夫, 藤田博己, 高田伸弘. 中国地方, 特に日本海側のダニ類と媒介感染症. 2009 年度ダニ類研究班集会. 2009 年 4 月, 高松

87) 藤田博己, 安藤秀二. 北日本にみる新型都市型紅斑熱のベクター. 第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井

88) 藤田博己, 高田伸弘, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野 愛, 坂田明子. 青森県における紅斑熱のベクター調査. 第 55 回日本衛生動物学会北日本支部大会. 2009 年 10 月, 帯広

89) 藤田博己, 高田伸弘, 及川陽三郎, 安藤秀二, 川端寛樹, 高野 愛, 坂田明子. 青森県における紅斑熱のベクター調査. 第 55 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2009 年 10 月, 帯広

90) 藤田博己, 高田伸弘, 矢野泰弘, 及川陽三郎, 川端寛樹, 安藤秀二, 坂田明子, 高野 愛. 国内のキチマダニから分離された *Rickettsia canadensis* について. 第 27 回日本クラミジア研究会・第 16 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2009 年 11 月, 東京

91) 藤田博己, 高田伸弘, 矢野泰弘, 馬原文彦, 川端寛樹, 安藤秀二, 岸本壽男, 坂田明子. 四国のマダニ類における紅斑熱群リケッ

チアの分離状況. 第 61 回日本衛生動物学会大会. 2009 年 4 月. 高松

92) 藤田博己, 大竹秀男, 矢野泰弘, 安藤秀二, 川端寛樹, 岸本壽男, 坂田明子, 高田伸弘. 宮城県で確認できたマダニとマダニ保有リケッチア. 第 61 回日本衛生動物学会大会. 2009 年 4 月. 高松

93) 藤田博己. 感染症法と保険診療. 野兎病診療の場合. 第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井

94) 藤田博己. 南西諸島におけるマダニ類, マダニ保有リケッチアおよび日本紅斑熱の関連性. 人獣共通感染症とダニ関連感染症セミナー IN 奄美. 2009 年 12 月, 鹿児島

95) 藤田博己. 日本のダニ媒介性感染症の概観・リケッチア感染症を中心に. 日本大学動物医科学研究センターセミナー. 2009 年 12 月, 神奈川

96) 内山恒夫, 岸真帆美, 小川基彦. リケッチア *Sca* 外膜蛋白質発現大腸菌の種々の細胞への付着侵入能. 第 57 回日本ウイルス学会学術集会. 2009 年 10 月, 東京

97) 肥田野新, 今内覚, 村瀬優介, 山田慎二, 伊東拓也, 川端寛樹, 小沼操, 大橋和彦. シュルツェマダニ (*Ixodes persulcatus*) 由来 *Salp16* 様遺伝子の同定と発現解析. 第 148 回日本獣医学会学術集会. 2009 年 9 月, 鳥取

98) 平良勝也, 近藤章之, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 安藤秀二, 他. 沖縄県宮古島

で初めて確認されたつつが虫病. 2009 年度日本獣医師会学会年次大会日本獣医公衆衛生学会, 2010 年 1 月, 宮崎

99) 本田俊郎, 坂元修二, 日高かおり, 藤田博己, 角坂照貴, 及川陽三郎, 山本正悟, 川端寛樹, 小泉信夫, 高田伸弘. 鹿児島県薩南諸島の野鼠保有病原体の調査 (2008 年度). 第 17 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナー SADI 越の国大会. 2009 年 6 月, 福井

100) 矢野泰弘, 高田伸弘, 岩崎博道, 藤田博己, 角坂照貴, 及川陽三郎, 田原研司, 山本正悟, 本田俊郎, 平良勝也, 安藤秀二, 川端寛樹, 岸本壽男. 環東シナ海の島嶼に分布するツツガムシ, 疫学的な連関は?. 第 61 回日本衛生動物学会大会. 2009 年 4 月. 高松

101) 矢野泰弘, 高田伸弘. 新型走査電顕画像によるマダニ幼若虫の有用分類の試行. 第 64 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2009 年 10 月, 大津

平成 22 (2010) 年度

1) ANDO S, Biosafety in diagnosing and research of rickettsioses. JICA-Viet Nam NIHE Workshop Hanoi. Jun. 2010, Vietnam

2) Gaowa, Wuritu, Kawamori F., Yoshikawa, Y., Ohashi, N. Molecular detection of tick-borne Rickettsia-related bacteria in western Japan. Japan-China International Symposium on Health Sciences. Oct. 2010, Shizuoka

3) Ishiguro, F., Yamazaki, f., Nagata, A., Fujita, H. & Takada, N.. Survery of vectors and pathogens associated with spotted fever cases in Fukui prefecture, Japan. 16th Fed. Asian Vet. Assoc. Cong 2011 Feb. 2011, Philippines

4) Iwasaki H, Ikegaya S, Tai K, Negoro E, Takagi K, Kishi S, Yamauchi T, Yoshida A, Urasaki Y, Ueda T, Kinetics of serum cytokine levels in the ANLL patients associated with febrile neutropenia. 第 72 回日本血液学会学術集会. 2010, 9.

5) Tabara, K., Kawabata, H., Itagaki, A., Yamauchi, T. Fujita, H & Takada, N.. High incidence of rickettsiosis correlated with the prevalence of Rickettsia japonica among Haemaphysalis longicornis tick associated with Japanese deer density in Shimane Peninsula, Shimane Pref., Japan. Int.Meeting on Emerg. Dis. and Surveil. (IMED 2011) Feb. 2011, Austria

6) 安藤秀二, 小川基彦, 岸本寿男, 倉根一郎. 感染症法施行後 10 年間における国内のリケッチア感染症の発生動向. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

7) 安藤秀二, 藤田博己, 坂田明子, 鶴見みや古, 尾崎清明, 花岡希, 高野愛, 川端寛樹. 国内のマダニ類が有する多様なリケッチアの遺伝子検出. 第 78 回日本細菌学会北海道支部総会・第 28 回日本クラジア研究会合同学術集会. 2010 年 9 月, 札幌

8) 安藤秀二, 発生動向から見える北日本の

リケッチア症の課題. 第 56 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会.

2010 年 10 月, 札幌

9) 安藤秀二. ダニ関連細菌感染症における遺伝子検出の意義と課題. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

10) 安藤秀二. 公的機関におけるリケッチア症実驗室診断の現状と課題. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

11) 安藤秀二. 日本で報告されるリケッチア症の現状 2009. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

12) 安藤秀二. 日本国内のリケッチア症の現状－日本紅斑熱を中心に－, 上天草総合病院日本紅斑熱講習会. 2011 年 2 月, 熊本

13) 安藤秀二. 北日本に見る *R. heilongjiangensis* 感染. シンポジウム「大陸と日本列島に橋を架ける」. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

14) 伊東拓也, 高田伸弘, 藤田博己, 川端寛樹, 安藤秀二, 大竹秀男. 北海道におけるイスカチマダニの再発見. 第 56 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2010 年 10 月, 札幌

15) 稲井邦博, 岩崎博道, 上田孝典, 法木左近. 細胞壁構成成分アセチルグルコサミンを分子標的とする病原体画像診断法の開発. 第

84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

16) 岡野祥, 平良勝也, 藤田博己, 高田伸弘, 角坂照貴, 山本正悟, 北野智一, 安藤秀二. 沖縄県で発生したつつが虫病. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

17) 花岡希, 川端寛樹, 山本正悟, 藤田博己, 坂田明子, 小川基彦, 高野 愛, 渡邊治雄, 岸本壽男, 白井睦訓, 倉根一郎, 安藤秀二. In silico 解析から新規に構築した日本紅斑熱迅速診断法とその応用. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

18) 花岡希, 岡部信彦, 松井珠乃, 佐藤弘, 島田智恵, 藤本嗣人. リケッチア症の情報発信に関する一考. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

19) 花岡希, 川端寛樹, 山本正悟, 藤田博己, 坂田明子, 小川基彦, 高野愛, 渡邊治雄, 岸本壽男, 白井睦訓, 倉根一郎, 安藤秀二. In silico 解析から新規に構築した日本紅斑熱迅速診断法とその応用. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

20) 岸本壽男. リケッチア感染症による急性感染性電撃性紫斑病について. 2010 年度希少感染症診断技術研修会. 2011 年 2 月, 東京

21) 岸本壽男, 木田浩司, 川上万里, 山下眞史, 田原研司, 高田伸弘, 藤田博己, 島津幸枝, 安藤秀二, 及川陽三郎. *R. japonica* による急性感染性電撃性紫斑病に関する臨床な

らびに関連する疫学調査について. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

22) 岩崎博道, 高田伸弘, 上田孝典. リケッチア感染症の病態とサイトカイン動態から何がみえてくるか. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

23) 岩崎博道, 上田孝典. 3 者 (ヒト・微生物・薬剤) 相互作用とサイトカイン. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

24) 岩崎博道, 新興リケッチア感染症・日本紅斑熱の重症化機序解明と救命治療法の確立. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

25) 及川陽三郎, 藤田博己, 矢野泰弘, 高田伸弘. 日本紅斑熱リケッチアより抽出したアルカリ・ポリサッカライド抗原感作プレートを用いた酵素抗体法. 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010 年 11 月, 倉敷

26) 金子紀子. 山形県のつつが虫病患者発生状況 (Kawasaki 型, Shimokoshi 型症例を中心に). 第 19 回日本ダニ学会大会公開シンポジウム. 2010 年 9 月, 仙台

27) 高橋 守, 三角仁子, 亀田和成, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘. 宮古島のつつが虫病発生地に生息するオカガニに寄生していたツツガムシ (予報). 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010 年 11 月, 倉敷

28) 高橋 守, 三角仁子, 増永 元, 田原義太慶, 角坂照貴, 鳥羽通久, 三保尚志, 高橋

久恵, 高田伸弘, 藤田博己, 岸本寿男, 菊池博達. ウミヘビツツガムシの生活環. 第 62 回日本衛生動物学会. 2010 年 4 月, 鹿児島

29) 高橋 守, 三角仁子, 角坂照貴, 菊池博達. ツツガムシによる単純刺症と *Orientia* 媒介の比較. 第 21 回日本臨床寄生虫学会大会. 2010 年 6 月, 下野市

30) 高田伸弘. ツツガムシ病発生と関連するタテツツガムシのリスクマップ試作<示説>. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

31) 高田伸弘. 雪国の雄太毛恙虫や荒砥恙虫を忘れてはならない—従来の資料からの提言—. 第 56 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2010 年 10 月, 札幌

32) 高田伸弘. 東北地方における恙虫病の変遷と今後の課題—ツツガムシというダニそして恙虫病, それは東北地方に始まった古くて新しい話—. 第 19 回日本ダニ学会大会公開シンポジウム. 2010 年 9 月, 仙台

33) 高田伸弘, 及川陽三郎, 藤田博己, 成田雅. 福島県南半部に多発する Kawasaki 型ツツガムシ病の感染推定地に対応するタテツツガムシの分布. 第 62 回日本衛生動物学会. 2010 年 4 月, 鹿児島

34) 高田伸弘, 高橋 守. アジアと日本列島に分布するツツガムシの共通性. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

35) 高田伸弘, 藤田博己, 高橋 守. 台湾系ツツガムシ病をみた宮古島, そこで確認したデリーツツガムシの浸淫. 第 19 回日本ダニ学会大会公開シンポジウム. 2010 年 9 月, 仙台

36) 高田伸弘, 平良勝也, 藤田博己, 山本正悟, 安藤秀二, 角坂照貴, 高橋 守, 川端寛樹, 北野智一, 岡野 祥, 御供田陸代, 高野愛, 矢野泰弘, 及川陽三郎, 本田俊郎, 岩崎博道, 平良セツ子. 台湾系ツツガムシ病をみた宮古列島, そこで確認したデリーツツガムシの浸淫. 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010 年 11 月, 倉敷

37) 高田伸弘. 東北地方における恙虫病の変遷と今後の課題—ツツガムシというダニそして恙虫病, それは東北地方に始まった古くて新しい話—. 第 19 回日本ダニ学会大会公開シンポジウム. 2010 年 9 月, 仙台

38) 佐々木広美, 市川康明, 坂田義美, 遠藤泰之, 西垣一男, 松本高太郎, 猪熊 壽. 全国の猫におけるマダニ媒介性リケッチア感染の疫学調査. 日本獣医内科学アカデミー2011年大会. 2011 年 3 月, 横浜

39) 佐藤寛子, 柴田ちひろ, 佐藤了悦, 斎藤博之, 安部真理子, 千葉真知子, 高橋 守, 藤田博己, 角坂 照貴, 高田伸弘, 川端寛樹, 高野 愛. 秋田県の著名観光スポットにおけるアカツツガムシ生息状況調査. 第 56 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2010 年 10 月, 札幌

40) 佐藤寛子, 國生泰範, 柴田ちひろ, 佐藤了悦, 斎藤博之, 安部真理子, 齊藤志保子,

高橋守, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 川端寛樹, 高野 愛, 須藤恒久. 秋田県におけるアカツツガムシ媒介性つつが虫病について. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

41) 佐藤寛子, 國生泰範, 柴田ちひろ, 斎藤博之, 齊藤志保子, 藤田博己, 角坂照貴, 高田伸弘, 高野 愛, 川端寛樹, 須藤恒久. Kato 型ツツガムシ病の発生と野外調査における O. tsutsugamushi の分離. 第 59 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 57 回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会. 2010 年 10 月, 東京

42) 佐藤寛子. 秋田県の古典型つつが虫病発生例とその関連情報. 第 19 回日本ダニ学会大会公開シンポジウム. 2010 年 9 月, 仙台

43) 山下眞史, 岩永 健, 渡邊雅男, 芝崎謙作, 井口保之, 木村和美, 木田浩司, 石井 学, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本寿男, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田博己, 田原研司, 島津幸枝, 及川陽三郎. 急性感染性電撃性紫斑病(AIPF)を合併した日本紅斑熱の 1 例. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

44) 山内健生, 田原研司, 金森弘樹, 川端寛樹, 新井 智, 片山 丘, 藤田博己, 矢野泰弘, 高田伸弘, 板垣朝夫. 島根県の日本紅斑熱汚染地域におけるマダニ相. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

45) 山本正悟, 三浦美穂, 北野智一, 松本一俊, 八尋俊輔, 平野学, 本田俊郎, 御供田陸

代, 石橋哲也, 安藤秀二, 岸本壽男. 九州地域の日本紅斑熱対策における地方衛生研究所の役割. 衛生微生物技術協議会第 31 回研究会. 2010 年 5 月, 鹿児島

46) 山本正悟, 北野智一, 三浦美穂, 大橋典男, 川森文彦, 高娃, 呉東興, 安藤秀二, 岸本壽男. 日本紅斑熱発生における猪の役割—宮崎県の場合—. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

47) 山本正悟, 北野智一, 三浦美穂, 大橋典男, 川森文彦, 高娃, 呉東興, 安藤秀二, 岸本壽男. 日本紅斑熱発生地におけるイノシシの役割. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

48) 山本徳栄, 近 真理奈, 増田純一郎, 青木敦子, 大山龍也, 大山通夫, 高橋 守, 藤田博己, 岸本壽男, 小川基彦, 安藤秀二, 埼玉県の野生化アライグマにおけるつつが虫病の血清疫学リケッチア調査, 第 12 回埼玉県健康福祉研究会. 2011 年 3 月, さいたま

49) 山本徳栄, 近真理奈, 増田純一郎, 高橋守, 藤田博己, 岸本壽男, 小川基彦, 安藤秀二. 埼玉県内のネズミ類における *Orientia tsutsugamushi* の保有状況. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

50) 小川基彦, 深澤征義, 内山恒夫. つつが虫病リケッチア感染による脂肪滴形成に関する研究~第一報~. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同

研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

51) 小川基彦, 内山恒夫. つつが虫病リケッチア培養系からの抗菌薬によるマイコプラズマ汚染の除去の試み. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

52) 松本高太郎, 佐々木広美, 山内健生, 猶熊 壽. エゾリス由来ノミからのリケッチア属最近の検出. 第 150 回日本獣医学会. 2010 年 9 月, 帯広

53) 森田裕司, 藤田博己. 和歌山県における日本紅斑熱発生の地域的特性. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

54) 成田 雅, 星野 智祥, 鵜沼 菜穂子, 佐藤 憲行, 菊池 明夫, 井上 実, 門馬 直太, 村松 康成, 竹之下 秀雄, 藤田 博己, 高田伸弘, 山本正悟, 安藤秀二, 高橋 守. 11 月熱 2010 福島県南におけるつつが虫病の臨床像. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

55) 赤松達矢, 藤田博己, 青山信子, 馬原文彦. 日本紅斑熱の簡易・迅速診断法としての間接赤血球凝集反応の医療現場における使用経験. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

56) 川上万里, 梅川康弘, 木田浩司, 石井 学, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本壽男, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田博己, 田原研司, 島津幸枝, 及川陽三郎. 岡山県で初めて確認

された日本紅斑熱と疫学調査について. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月. 京都.

57) 山下眞史, 岩永 健, 渡邊雅男, 芝崎謙作, 井口保之, 木村和美, 木田浩司, 石井 学, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本壽男, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田博己, 田原研司, 島津幸枝, 及川陽三郎. 急性感染性電撃性紫斑病 (AIPF) を合併した日本紅斑熱の 1 例. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

58) 川森文彦, 長岡宏美, 杉山寛治, 山本正悟, 大橋典男. Multiplex リアルタイム PCR による「つつが虫病」および「紅斑熱」の迅速診断. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

59) 川端寛樹, 高野 愛, 五箇公一, 宇根有美, 藤田博己, 角坂照貴, 渡邊治雄, 大西 真. マダニと病原微生物の共進化メカニズムの解明に向けて. 第 21 回日本臨床寄生虫学会大会. 2010 年 6 月, 下野市

60) 大橋典男. 最近本邦でも確認されたアナプラズマ症-その実態と今後の課題. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

61) 大竹秀男, 小林 萌, 藤田博己. 宮城県仙台の公園・緑地環境におけるマダニ類の生息状況. 第 56 回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会. 2010 年 10 月, 札幌

62) 池ヶ谷諭史, 稲井邦博, 岩崎博道, 上田孝典. Azithromycin は p38 MAPK と HSP-70 を修飾することにより単球の TNF-

α 産生を抑制する. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

63) 竹内俊彦, 山本慎二, 今野泰博, 西原純一, 内田桐子, 猪熊 壽. 国内において重度貧血を呈した羊末梢血からの *Mycoplasma ovis* および ‘*Candidatus Mycoplasma haemovis*’ の検出. 第 150 回日本獣医学会. 2010 年 9 月, 帯広

64) 中山恵介, 小椋義俊, 大岡唯佑, 林 哲也. *Orientia tsutsugamushi* に存在が予想されるペプチドグリカンの解析. 第 83 回日本細菌学会総会. 2010 年 3 月, 横浜

65) 中山恵介, 林 哲也. ペプチドグリカン合成阻害剤が *O. tsutsugamushi* の増殖に与える影響. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

66) 中山恵介, 林 哲也. 細胞壁合成阻害剤がオリエンチアの増殖に与える影響. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

67) 中野敏明, 衛藤光, 横田恭子, 古川恵一, 安藤秀二, 坂田明子. 輸入リケッチア症への対応-アフリカの例から. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

68) 堤 寛. ダニ咬傷の病理. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

69) 田居克規, 岩崎博道, 池ヶ谷諭史, 上田孝典. 各種抗菌薬によるサイトカイン産生修

飾作用の検討. 第 58 回日本化学療法学会西日本支部総会. 2010 年 11 月, 大分

70) 田居克規, 岩崎博道. 抗菌薬によるサイトカイン産生修飾作用を介したリケッチア感染症の生体防御. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

71) 田居克規, 池ヶ谷論史, 岩崎博道, 高木和貴, 浦崎芳正, 上田孝典. 抗菌薬によるサイトカイン産生修飾作用の網羅的解析. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

72) 田居克規, 池ヶ谷論史, 岩崎博道, 上田孝典. 単球系細胞におけるテトラサイクリン系およびマクロライド系によるサイトカイン産生修飾. 第 58 回日本化学療法学会. 2010 年 6 月, 長崎

73) 田原研司, 高垣謙二, 花岡 希, 安藤秀二. 日本紅斑熱の早期診断検査と早期治療の必要性. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011 年 1 月, 大津

74) 島津幸枝, 高尾信一, 谷澤由枝, 田原研司, 藤田博己, 矢野泰弘, 高田伸弘. 広島県におけるつつが虫病の発生状況と血清型別に見た病原リケッチアの地理的分布. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

75) 藤田博己, 高田伸弘, 藤田信子, 及川陽三郎, 安藤秀二, 川端寛樹, 大竹秀男. 青森県と岩手県におけるイスカチマダニの生息調査. 第 56 回日本寄生虫学会・日本衛生動物

学会北日本支部合同大会. 2010 年 10 月, 札幌

76) 藤田博己, 赤松達矢, 藤田信子, 馬原文彦. 高知県室戸岬のマダニ相調査とマダニ保有リケッチアの検索 -2008 年と 2010 年の成績. 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010 年 11 月, 倉敷

77) 藤田博己. リケッチア症と野兔病の簡易抗体検査法の検討. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

78) 藤田博己. わが国のマダニ媒介リケッチアの隠された問題, 北の *heilongjiangensis*, 中の *canadensis*, 南の *honei*. 第 18 回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー. 2010 年 6 月, 佐渡

79) 藤田博己. 国内において *Rickettsia japonica* 以外の紅斑熱群リケッチアを媒介するマダニ種の寄生生態. 第 21 回日本臨床寄生虫学会大会. 2010 年 6 月, 下野市

80) 藤田博己. 南の島々にみるマダニと紅斑熱群. 第 62 回日本衛生動物学会. 2010 年 4 月, 鹿児島

81) 藤田博己. 本邦におけるリケッチア症の多様性—特に新型紅斑熱の出現による新たな展開. シンポジウム 5 ダニ関連細菌感染症, 特にリケッチア症の新たな展開. 第 84 回日本感染症学会総会. 2010 年 4 月, 京都

82) 内山恒夫, 岸 真帆美, 小川基彦. リケッチアの重感染. 第 83 回日本細菌学会総会.

2010年3月, 横浜

83) 内山恒夫, 岸 真帆美, 小川基彦. 非病原性リケッチア *Rickettsia montanensis* の増殖制御機序. 第 58 回日本ウイルス学会学術集会, 2010年11月, 徳島

84) 内山恒夫, 岸 真帆美, 小川基彦. 非病原性リケッチア株の培養細胞における増殖抑制. 第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011年1月, 大津

85) 畠山 拓, 勝見正道, 新木 茂, 藤田博己. 仙台内におけるイヌ血清を用いた紅斑熱群リケッチア疫学調査. 2010年度東北地区獣医師大会日本獣医公衆衛生学会(東北). 2010年9月, 秋田

86) 本田俊郎, 藤田博己, 御供田睦代, 角坂照貴, 矢野泰弘, 高田伸弘, 及川陽三郎, 安藤秀二, 川端寛樹, 山本正悟, 高野 愛, 坂田明子. 鹿児島県薩南諸島におけるアサヌマダニと紅斑熱群リケッチア保有状況調査. 第 62 回日本衛生動物学会. 2010年4月, 鹿児島

87) 木田浩司, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本壽男, 高田伸弘, 藤田博己, 川上万里, 田原研司, 島津幸枝, 安藤秀二. 紅斑熱群リケッチアの岡山県におけるサーベイランス. 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010年11月, 倉敷

88) 木田浩司, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本壽男, 川上万里, 梅川康弘, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田博己, 田原研司, 島津

幸枝, 及川陽三郎. 岡山県における紅斑熱群リケッチアの侵淫状況調査. 2010年度岡山県獣医師会公衆衛生学会. 2010年10月, 岡山

89) 木田浩司, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本壽男, 川上万里, 梅川康弘, 高田伸弘, 矢野泰弘, 藤田博己, 田原研司, 島津幸枝, 及川陽三郎. 紅斑熱群リケッチアの岡山県におけるサーベイランス. 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010年11月, 倉敷

90) 木田浩司, 中本敦, 葛谷光隆, 濱野雅子, 藤井理津志, 岸本壽男, 城ヶ原貴道, 小林秀司. 岡山県に生息するヌートリア及び付着マダニにおけるリケッチア保有状況. 第 3 回日本リケッチア臨床研究会・第 18 回リケッチア研究会合同研究発表会. 2011年1月, 滋賀

91) 矢野泰弘, 及川陽三郎, 高田伸弘. 最近のマダニ刺咬症, 自験例の集約と考察. 第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会. 2010年11月, 倉敷

92) 矢野泰弘, 及川陽三郎, 高田伸弘. 最近のマダニ刺咬症自験例につきその集約と考察. 第 19 回日本ダニ学会大会公開シンポジウム. 2010年9月, 仙台

93) 矢野泰弘, 高田伸弘. 新型走査電顕画像によるマダニの幼若虫の有用分類の試行. 第 62 回日本衛生動物学会. 2010年4月, 鹿児島

94) 齋藤 亨, 佐々木広美, 竹内俊彦, 藤澤哲郎, 吉本 薫, 松本高太郎, 猪熊 壽. 日本紅斑熱患者が増加する熊本県上天草地域にお

けるイノシシの疫学的役割. 第 150 回日本獣医学学会. 2010 年 9 月, 帯広

平成 23 (2011) 年度

1) ANDO S. Trend of rickettsioses in Japan, 6th International meeting of Rickettsiae and rickettsial Diseases. Jun. 2011, Crete, Greece

2) Gaowa, Wuritu, Aochi M., Kawamori, F., Yoshikawa, Y., and Ohashi, N. Molecular detection of Rickettsiales bacteria from ticks in western Japan. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress. Sep. 2011, Sapporo, Japan

3) Ikegaya S, Lee S, Matsuda Y, Negoro E, Takagi T, Kishi S, Yamauchi T, Yoshida A, Urasaki Y, Iwasaki H. Ueda T. Clinical efficacy of meropenem 1.5g versus 3g per day as empirical therapy in febrile neutropenia. 73rd Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct. 2011

4) Iwasaki H. Mahara F, Tai K, Ueda T. Cytokine modulation induced by anti-rickettsial antibiotics, tetracyclines and quinolones. EPS Modern Medical Forum 2011. Nov. 2011

5) Kyle Taylor, 高野 愛, 川端寛樹, 下鶴倫人, 坪田敏男. Rodent dynamics and *Borrelia* spp. infection rates in Hokkaido. 第 153 回日本獣医学学会学術集会. 2012 年 3 月, 大宮

6) Mahara F, Iwasaki H. Clinical Studies on Japanese spotted fever and other rickettsiosis in Japan. EPS Modern Medical

Forum 2011. Sep. 2011

7) Ogawa, M., Fukasawa, M., and Uchiyama, T. 2011. Infection with the obligated intracellular bacterium *Orientia tsutsugamushi*, a causative agent of scrub typhus facilitates formation of lipid droplets in L-929, mouse fibroblast cells. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (XIII International Congress of Bacteriology and Applied Microbiology [兼 第 84 回日本細菌学会総会]), Sapporo, Japan.

8) Takagi K, Iwasaki H. Ikegaya S, Kishi S, Yamauchi T, Urasaki Y, Yoshida A, Ueda T. Retrospective study for efficacy of rhG-CSF prophylaxis to febrile neutropenia in lymphoma patients. 73rd Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. Oct. 2011

9) Tamakuma K, Miyamoto K, Shioyama K, Utsunomiya H, Inada K, Fujita H. Mahara F, Tsutsumi Y. Detection of *Rickettsia japonica* and *Orientia tsutsugamushi* by in situ hybridization. 23rd Meeting of the American Society for Rickettsiology, 2009, South Carolina, USA

10) Uchiyama, T., and Fujita, H. 2011. Coinfection of mammalian and tick cells with pathogenic and nonpathogenic spotted fever group rickettsiae. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology and the XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Dis-